

2020年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年3月12日

上場会社名 ラクスル株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4384 URL <https://corp.raksul.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 松本 恭攝
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 永見 世央 TEL 03(6629)4893
 四半期報告書提出予定日 2020年3月12日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2020年7月期第2四半期の業績（2019年8月1日～2020年1月31日）

（1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年7月期第2四半期	11,146	48.7	△259	—	△343	—	△448	—
2019年7月期第2四半期	7,495	52.9	71	—	65	—	21	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年7月期第2四半期	△16.07	—
2019年7月期第2四半期	0.77	0.73

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年7月期第2四半期	19,180	6,700	34.9
2019年7月期	9,246	6,809	73.6

（参考）自己資本 2020年7月期第2四半期 6,699百万円 2019年7月期 6,808百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年7月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年7月期	—	0.00	—	—	—
2020年7月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年7月期の業績予想（2019年8月1日～2020年7月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		non-GAAP 営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,000 ～23,000	28.1 ～34.0	△560 ～△660	—	△500 △600	—	△660 ～△760	—	△770 ～△870	—	△27.44 ～△31.00

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

2. 当期においては、当社の企業価値向上の源泉となる売上総利益及びその前提としての売上高について前期比30%以上の成長を目標とし、プラットフォーム価値を高めるための再投資を継続することが当社の企業価値向上にとって最重要であると考え、積極的に投資を行ってまいりました。売上高につきましては、2020年7月期第2四半期累計期間においては、前年同期比48.7%と順調に成長を続けておりますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響が今期末まで続いた場合（レンジの上限については第3四半期末で事態が収束）を想定し、通期においては前年同期比28.1%～34.0%を見込んでおります。詳細は添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年7月期2Q	28,065,390株	2019年7月期	27,805,200株
② 期末自己株式数	2020年7月期2Q	32株	2019年7月期	32株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年7月期2Q	27,891,661株	2019年7月期2Q	27,623,383株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1.当四半期決算に関する定性的情報（4）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法について）

当社は、2020年3月12日に機関投資家及び証券アナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明資料は、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) キャッシュ・フローに関する説明	3
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
第2四半期累計期間	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

わが国経済は、企業業績の回復、雇用・所得環境の改善などにより景気は緩やかな回復が続いておりましたが、米中貿易摩擦による世界経済の停滞リスクに加えて国内では2019年10月の消費増税の影響もあり、2019年10～12月のGDP速報値が5四半期ぶりに減少に転じるなど、景気後退局面に差し掛かっております。

印刷業界においては、デジタルメディアの拡大とともに従来型の紙媒体の需要が減少傾向にあります。その一方で、印刷EC業界は潜在需要が大きく、2012年度から2018年度までの年平均成長率が10%超、また2018年度の市場規模は920億円に拡大していると想定されております（株式会社矢野経済研究所「印刷通販市場に関する調査結果2013」2013年11月7日発表によります）。

また、国内のトラック運送事業は、約14兆円という巨大な市場であります（国土交通省「物流を取り巻く現状について」2018年10月によります）。しかし、業界構造は多重下請け構造となっているうえ、車両の手配は電話・FAXでの連絡が中心であり人力に頼った運用となっているのが実態であります。当社は物流業界においてもITによる効率化を図るとともに業界構造そのものをフラット化することで、荷主・運送会社双方に新たな価値提供ができると考えております。このような状況の中、当社は、「仕組みを変えれば、世界はもっと良くなる」というビジョンの下、主に印刷・集客支援（広告）のシェアリングプラットフォーム「ラクスル」と、物流のシェアリングプラットフォーム「ハコベル」を運営してまいりました。

「ラクスル」では、引き続き商品ラインナップの拡充とともに無料のデザイン制作ソフト「オンラインデザイン」や「スピードチェック入稿」の機能拡充等、顧客の利便性向上に努めております。また、「ハコベル」においても、登録運送業者数の増加やマッチング効率の上昇等、継続的にサービスの拡充に努めております。さらに、両事業とも将来を見据え、登録ユーザー数増加に向けた広告宣伝投資を積極的に行い、組織体制強化のための人材採用に注力いたしました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は11,146百万円（前年同期比48.7%増）、営業損失は259百万円（前年同期は営業利益71百万円）、経常損失は343百万円（前年同期は経常利益65百万円）、四半期純損失は448百万円（前年同期は四半期純利益21百万円）となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

(印刷事業)

印刷事業においては、引き続きTVCM等の広告宣伝投資を積極的に行うことで、新規顧客の獲得が進みリピート購入数も好調に推移いたしました。また集客支援サービスを中心に短納期商材の拡充を図り、高単価・高採算商品の売上拡大に繋がりました。この結果、売上高は9,886百万円（前年同期比43.3%増）、セグメント利益は561百万円（前年同期比13.6%減）となりました。

(運送事業)

運送事業においては、各企業が輸送コストの増大に課題を抱えている中で積極的な提案活動を行ったことにより、顧客基盤は引き続き順調に拡大しております。また登録ドライバー数の増加や専属車両の確保等キャパシティの拡大にも努めております。この結果、売上高は1,204百万円（前年同期比117.5%増）、セグメント損失は231百万円（前年同期はセグメント損失47百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産は17,806百万円となり、前事業年度末に比べ9,825百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が9,229百万円増加するとともに、売上高の拡大に伴い売掛金が356百万円増加、前払費用が136百万円増加したこと等によるものであります。

(固定資産)

当第2四半期会計期間末における固定資産は1,373百万円となり、前事業年度末に比べ108百万円増加いたしました。これは主に、無形固定資産がシステムの開発投資などにより70百万円増加したことによるものであります。

(流動負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債は2,301百万円となり、前事業年度末に比べ31百万円減少いたしました。これは主に、事業規模の拡大に伴い仕入額が増加した結果、買掛金が177百万円増加した一方、短期借入金が100百万円減少、1年内返済予定の長期借入金が91百万円減少したことによるものであります。

(固定負債)

当第2四半期会計期間末における固定負債は10,178百万円となり、前事業年度末に比べ10,074百万円増加いたしました。これは主に、長期借入金が5,000百万円増加、転換社債型新株予約権付社債が5,048百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は6,700百万円となり、前事業年度末に比べ109百万円減少いたしました。これは主に、新株予約権の行使により資本金が166百万円、資本準備金が166百万円増加した一方、四半期純損失448百万円を計上したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、長期借入金の増加とともに、転換社債型新株予約権付社債の発行等により前事業年度末に比べて9,229百万円増加し、当第2四半期会計期間末には15,134百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において営業活動の結果使用した資金は487百万円(前年同期は257百万円の使用)となりました。これは主に、売上高の拡大の結果、売上債権が330百万円増加したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において投資活動の結果使用した資金は149百万円(前年同期は130百万円の使用)となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出87百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において財務活動の結果得られた資金は9,866百万円(前年同期は75百万円の使用)となりました。これは主に、長期借入れによる収入5,000百万円及び新株予約権付社債の発行による収入4,990百万円があったこと等によるものであります。

(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期においては、当社の企業価値向上の源泉となる売上総利益及びその前提としての売上高について前期比30%以上の成長を目標とし、プラットフォーム価値を高めるための再投資を継続することが当社の企業価値向上にとって最重要であると考え、積極的に投資を行ってまいりました。

売上高につきましては、2020年7月期第2四半期累計期間においては、前年同期比48.7%と順調に成長を続けておりますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響が今期末まで続いた場合（レンジの上限については第3四半期末で事態が収束）を想定し、通期においては前年同期比28.1%~34.0%を見込んでおります。印刷事業（印刷、集客支援、TVCサービス）においては、計画を上回るペースで新規顧客の獲得が進んだことに加えて、当該新規顧客及び既存顧客のリピート購入も好調に推移しました。また、運送事業においては、ユーザー（荷主）獲得のための営業チームの採用拡大及び運送キャパシティの確保等により、一般貨物を中心に成長を続けております。なお、本業績予想については新型コロナウイルスの影響を反映しておりますが、当初開示予定（新型コロナウイルスの影響が無い前提）であった業績予想は、前期比39.8%の約24,000百万円であります。

利益面につきましては、当社企業価値の源泉である売上総利益が4,800百万円~5,100百万円となる見込みです。営業利益（non-GAAP）（注）につきましては、広告宣伝費及び運送事業への積極的な成長投資による販管費の増加から△500百万円~△600百万円を見込んでおり、経常利益につきましては銀行借入による支払利息及び転換社債型新株予約権付社債の発行費用等により△660百万円~△760百万円を見込んでおります。

なお、当期純利益につきましては△770百万円~△870百万円を見込んでおり、当期の業績を踏まえ、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、2020年7月期第2四半期の決算において繰延税金資産130百万円を取り崩し、法人税等調整額に計上することといたしました。

（注） non-GAAP業績値は、財務会計上の数値（GAAP、日本基準）から非経常項目やその他特定の調整項目を一定のルールに基づいて控除もしくは調整したものです。当社の恒常的な経営成績を理解するために有用な情報と判断しており、当社はnon-GAAPベースで予想値を開示しております。具体的には、株式報酬費用を中心に、当社が控除すべきと判断する一過性の利益や損失などを控除もしくは調整しております。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年7月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,904,840	15,134,716
受取手形	81,863	56,147
電子記録債権	1,753	1,778
売掛金	1,826,588	2,183,049
原材料及び貯蔵品	4,945	14,963
前払費用	92,458	228,946
その他	69,505	187,692
貸倒引当金	△114	△422
流動資産合計	7,981,842	17,806,871
固定資産		
有形固定資産		
建物	217,366	229,525
減価償却累計額	△45,031	△54,926
建物(純額)	172,335	174,599
機械及び装置	581,336	581,336
減価償却累計額	△221,217	△250,284
機械及び装置(純額)	360,118	331,051
工具、器具及び備品	58,102	64,807
減価償却累計額	△30,032	△33,925
工具、器具及び備品(純額)	28,069	30,881
リース資産	170,000	170,000
減価償却累計額	△76,500	△84,999
リース資産(純額)	93,500	85,000
有形固定資産合計	654,023	621,532
無形固定資産		
ソフトウェア	105,446	173,490
ソフトウェア仮勘定	67,425	70,291
無形固定資産合計	172,872	243,782
投資その他の資産		
投資有価証券	128,352	128,679
長期前払費用	—	176,521
差入保証金	235,071	202,715
繰延税金資産	74,144	—
投資その他の資産合計	437,568	507,916
固定資産合計	1,264,463	1,373,230
資産合計	9,246,306	19,180,101

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年7月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,458,493	1,635,794
短期借入金	180,000	80,000
1年内返済予定の長期借入金	91,430	—
リース債務	41,402	22,000
未払金	332,068	398,163
未払法人税等	49,974	25,754
未払消費税等	53,557	18,977
前受金	41,476	70,746
その他	84,416	49,966
流動負債合計	2,332,818	2,301,402
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	—	5,048,333
長期借入金	—	5,000,000
資産除去債務	103,716	104,105
繰延税金負債	—	25,919
固定負債合計	103,716	10,178,358
負債合計	2,436,535	12,479,760
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,958,453	2,124,738
新株式申込証拠金	—	10,114
資本剰余金		
資本準備金	4,765,791	4,932,077
資本剰余金合計	4,765,791	4,932,077
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	85,057	△363,096
利益剰余金合計	85,057	△363,096
自己株式	△101	△101
株主資本合計	6,809,201	6,703,731
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△284	△4,244
評価・換算差額等合計	△284	△4,244
新株予約権	854	854
純資産合計	6,809,770	6,700,341
負債純資産合計	9,246,306	19,180,101

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年8月1日 至 2019年1月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)
売上高	7,495,836	11,146,643
売上原価	5,692,645	8,731,341
売上総利益	1,803,191	2,415,301
販売費及び一般管理費	1,731,813	2,674,841
営業利益又は営業損失(△)	71,377	△259,540
営業外収益		
受取利息	32	1,707
受取配当金	780	780
雑収入	91	2,351
営業外収益合計	903	4,839
営業外費用		
支払利息	4,883	13,231
社債発行費	—	59,719
投資事業組合運用損	—	341
上場関連費用	—	9,111
雑損失	1,403	6,497
営業外費用合計	6,286	88,900
経常利益又は経常損失(△)	65,994	△343,601
特別利益		
固定資産売却益	239	—
特別利益合計	239	—
特別損失		
固定資産除却損	4,566	906
関係会社株式評価損	44,985	—
特別損失合計	49,551	906
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	16,683	△344,508
法人税、住民税及び事業税	11,764	3,409
法人税等調整額	△16,245	100,235
法人税等合計	△4,480	103,645
四半期純利益又は四半期純損失(△)	21,164	△448,154

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年8月1日 至 2019年1月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	16,683	△344,508
減価償却費	61,257	76,299
投資事業組合運用損益 (△は益)	—	341
関係会社株式評価損	44,985	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	3	308
受取利息及び受取配当金	△812	△2,487
支払利息	4,883	13,231
社債発行費	—	59,719
固定資産売却損益 (△は益)	△239	—
固定資産除却損	4,566	906
売上債権の増減額 (△は増加)	△245,699	△330,767
仕入債務の増減額 (△は減少)	101,753	177,300
未払金の増減額 (△は減少)	62,873	60,111
その他	△285,588	△165,592
小計	△235,334	△455,138
利息及び配当金の受取額	812	820
利息の支払額	△4,734	△12,792
法人税等の支払額	△18,084	△20,319
営業活動によるキャッシュ・フロー	△257,341	△487,430
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△16,633	△22,157
有形固定資産の売却による収入	1,200	—
無形固定資産の取得による支出	△57,653	△87,327
投資有価証券の取得による支出	—	△4,800
差入保証金の差入による支出	△57,414	△801
差入保証金の回収による収入	—	11,815
貸付けによる支出	—	△46,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△130,502	△149,271
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	—	△100,000
長期借入れによる収入	—	5,000,000
長期借入金の返済による支出	△97,434	△91,430
リース債務の返済による支出	△17,914	—
新株予約権の行使による株式の発行による収入	39,396	57,612
新株式申込証拠金の払込による収入	—	10,114
新株予約権付社債の発行による収入	—	4,990,280
財務活動によるキャッシュ・フロー	△75,951	9,866,577
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△463,795	9,229,876
現金及び現金同等物の期首残高	6,366,217	5,904,840
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,902,422	15,134,716

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2019年11月7日開催の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬として2019年11月29日に新株式の発行を行い、当第2四半期累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ137,479千円増加しております。また、新株予約権の行使により、当第2四半期累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ28,806千円増加しております。

この結果、当第2四半期会計期間末において資本金が2,124,738千円、資本剰余金が4,932,077千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間 (自 2018年8月1日 至 2019年1月31日)

a. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	印刷事業	運送事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	6,899,571	553,759	7,453,330	42,506	7,495,836	—	7,495,836
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	152	152	—	152	△152	—
計	6,899,571	553,912	7,453,483	42,506	7,495,989	△152	7,495,836
セグメント利益 又は損失 (△)	649,700	△47,078	602,621	15,476	618,097	△546,719	71,377

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム構築支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△546,719千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

b. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間 (自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)

a. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	印刷事業	運送事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	9,886,657	1,204,188	11,090,845	55,797	11,146,643	—	11,146,643
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	9,886,657	1,204,188	11,090,845	55,797	11,146,643	—	11,146,643
セグメント利益 又は損失 (△)	561,485	△231,977	329,508	19,039	348,547	△608,087	△259,540

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム構築支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△608,087千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

b. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。